

## 人形芝居「切竹紋次人形」再興事業

### 取組に至る背景・事業の目的

江戸末期、中川村田島地区に人形師 切竹紋次によりもたらされた人形は、紋次の没後、明治 15 年に有志により引き取られ、昭和 37 年まで 80 年間興行されてきたが、その後長らく途絶えていた。そこで、最後の興行から 50 年という節目の平成 24 年度に、新たに「中川人形保存会」を発足させ、伝統芸能である人形芝居「切竹紋次人形」を再興し、人々が伝えてきた文化を受け継ぎ、発展させることで地域の連帯と活性化を図った。

### 事業内容

- ・ 伊那谷の人形芝居に携わっている講師を招き、人形の動き、三味線、義太夫（語り）についての実技指導を受けることで、基礎技能の習得を目指した。
- ・ 取り組みの成果の発表と、伝統ある人形浄瑠璃を多くの人に知ってもらい、村の文化財産として継承していくため、平成 27 年 3 月には練習成果を披露する公演を行ったほか、文部科学省の優良公民館表彰で事例発表を行った。

また、中川西小学校「中川人形クラブ」の発足により、人形浄瑠璃を次世代へ伝承していく活動を行っている。



【 練習風景 】

### 事業効果

- ・ かつて村にあった人形浄瑠璃を講義や舞台研修等の学習を通して、その文化が地域にどのように根付き、また人々の暮らしとどのように結びついてきたかを学び、これからの地域づくりや地域活性化の一助となった。
- ・ 公民館講座と共催し広く住民に参加を呼びかけ、人形の演者以外にも大道具や衣装等の制作、三味線や義太夫への参加など、地域住民がつながる場とし、地域の連帯と活性化を図ることができた。
- ・ 定期発表会や各地での事例発表を通して、かつて中川村に人形芝居（浄瑠璃）があったことを村内外に伝え、地域文化への理解が深まった。また、小学生への人形浄瑠璃実技指導を通して、地域の伝統文化としてこれからも次世代へ繋げていくための第一歩を踏み出す事ができた。
- ・ 戦時中、中川村に集団疎開していた世田谷区東京二子玉川国民学校の児童が終戦によって東京に引き揚げられ、その後保護者達から人形の首と衣装がお礼に贈られた経過があり、定期公演にはその関係者の方々にも見に来ていただき、都市と農村の新たな関係を築くことができた。

### 工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

3月の定期公演では、戦時中の疎開のお礼に人形の首を贈って頂いた東京都世田谷区の関係者も訪れた。今後も文化を通じた交流を図り、人形芝居に関係する人・物などの新たなつながりを築く取り組みに拡げていきたい。また、小中学生を中心とした子どもたちに人形浄瑠璃を伝えていく活動を引き続き実施し、伝統文化を通して地域の魅力を認識し、若者が住み続けたいと思える村づくりの一助としたい。

#### 【選定のポイント】

小学校のクラブ指導など地域の伝統文化に対する理解の向上や次世代への伝承が図られ、公民館との協働事業により、第 67 回優良公民館表彰優秀館を受賞するなど波及効果の高い取組となった。

団体名	中川人形保存会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0265-88-1005 (中川村公民館)	事業費	1,201,529 円
		支援金額	819,000 円